

売薬の意匠あれこれ 〈その11〉 塗り絵と画帳

北多摩薬剤師会会長・立川市薬剤師会会長代行 平井 有 (ひらい・たもつ)

本連載では、昔の薬局や売薬(OTC医薬品)のさまざまな宣伝媒体をご紹介します。前回の猪口や前々回の灰皿は大人をターゲットにした販促品でしたが、今回ご紹介する塗り絵と画帳、今後ご紹介する予定のおもちゃや文房具は、子どもを対象とした販促品です。

現在の少子高齢社会とは違い、子どもがたくさんいた時代は、お母さんが子連れで買い物に出かけたので、多くの

子どもが薬局にも立ち寄りしました。

薬局でもらえる「おまけ」は、子どもはもちろん子を思う親心を上手く捉え、薬局にとって売上向上と売薬の宣伝に欠かせないアイテムだったと言えるでしょう。薬局でもらえる数々の「おまけ」の中から、今回は塗り絵と画帳のコレクションをご覧ください。

■ 塗り絵



きんしやう
今上天皇(明仁天皇陛下)の皇后美智子妃殿下が皇室に嫁がれた昭和34年(1959)前後、国民は「ミッチー・ブーム」に沸いた。そんな時代を如実した塗り絵である。(森田薬品販売)



少女の塗り絵は、昭和20~30年頃、塗り絵が大流行した時代に活躍した作家(筆名たけし、故・稲津寅雄氏)の作品。中外製薬は平成16年(2004)、OTC事業をライオンに譲渡している。(中外製薬)

スルピリンを含有する医家向け注射液およびOTCの風邪薬「オベロン」の販促品。1960年代(昭和35年~)、NASAのアポロ計画がスタート。宇宙が身近なものになった時代の塗り絵。(日本新薬)



■ 画帳(スケッチブック)



表紙絵は、子どもの遊びをテーマにしており、他にもフラフープやホッピングなど数種ある。丸に三角の「ウロコ印」は、昭和18年(1943)に社名を武田長兵衛商店から武田薬品工業に改称する際、社章とした。(武田薬品工業)

「ポボンS」は昭和27年(1952)に発売され、現在は「ポボンプラス」(指定第2類医薬品)と「ポボンS」(指定医薬部外品)の2種がある。名前の由来は「ぼぼん(活力や意欲が非常に盛んなことを意味する旺盛擬声語)+SHIONOGIのSとのこと。(塩野義製薬)



ビタミン剤「ミネピタルの歌」のCMソングの譜面が書かれた斬新な表紙。作詞・作曲は日本で初めてCMソングを作った三木鶏郎。三木はトクホン、ノーシン、ルル、サロンパスなどのCMソングも手がけている。ミネピタル錠は販売終了。(三共、現・第一三共ヘルスケア)

■ クレヨン

パッケージに平成元年(1989)頃、「ピップエレキバン」のCMに出演していた樹木希林と片岡鶴太郎の写真、80年代を象徴するファンシーなイラスト。子どもに肩こり・足腰のこりは無いと思うので、親御さんの購買意欲をさそう作戦。(ピップフジモト、現・ピップ)



かつての日本では肥料としての人糞の使用や衛生状態や栄養状態の不良により寄生虫卵感染率は高く、昭和24年(1949)の小学生の感染率は全国平均64%だったが、駆除対策や公衆衛生の向上により昭和41年(1966)には10%を下回った。(田辺製薬、現・田辺三菱製薬)



昭和初期、消炎・鎮痛に用いられるバップ剤の「エキシカ」(塩野義商店)と「ホスピン」(武田長兵衛商店)の販売競争はし烈を極め、後に双方から二文字をとり「エキホス」とし併売した。(塩野義商店、現・塩野義製薬)